

	① フィルモント派遣 ② 24WSJ ③ 富士特別野営 ④ 各団の活動記録		第 20 号 令和元年 10 月 15 日 編集・発行 日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 組織拡充委員会 広報部会 編集・発行 編集責任者 中村 一徳
---	--	--	---

2019PHILMONT EXPEDITION

(2019 年フィルモント派遣)



派遣団長兼派遣隊隊長

春日井第 8 団 BS 隊長 小林弘幸

派遣期間 令和 1 年 7 月 19 日～8 月 7 日

派遣先 アメリカ合衆国ニューメキシコ州シマロン
ボーイスカウトアメリカ連盟 フィルモント
スカウトランチ

派遣隊 8 名でアメリカ合衆国の「フィルモント スカウト ランチ」に出かけました。

「フィルモント」の歴史はとても古く、開設されてから 100 年以上が経過しており、広大な土地と豊かな自然を誇る場所です。そこには、電気、ガスは無く、場所によっては水もありません。

ここは野生動物の天国で、多くの動物、昆虫が生息しています。

我々が歩いたコースはフィルモントの北側にある高原地帯を歩くコースで、3800m 級の 2 つの山を含む約 140km の道を 12 日かけて歩きました。

それぞれに 85L 程度のバックパックを背負い、キャンプに必要なすべてを背負います。一番重い時の重量は、おそらく 27～28kg くらいになります。

朝は 4 時に起きて撤収し、5 時には歩き始めます。次の目的地に近い日は、昼前にはキャンプ

エリアにつきますが、道のりが長い日は15時くらいまで、歩きくこともありました。キャンプエリアには、スタッフがいる所といない所があり、スタッフがいるところでは、いろいろなプログラムが用意されており、ゲームやスポーツを楽しんだり、キャンプファイヤーやフィルモント特有のプログラムを楽しみました。

この派遣は、過酷な状況下に自らを置き、自らの持つスカウト技能で、自らの道を選択して進まなければなりません。自分たちの物事に対する選択、意志決定など、責任を伴うことも多く、大変な派遣であったと思いますが、その分、思い出に残る派遣であり、一生忘れられない体験をしてきたと思います。

フィルモントを後にして、ロサンジェルスでのホームステイでは、ホストファミリーとビーチやメジャーリーグの野球観戦など楽しい思い出をつくり帰国しました。



海外派遣事業
壮行会報告



行事国際委員会

嶋田日連国際委員長より激励のご挨拶と参加スカウト・指導者に派遣団チーフが伝達され、7月19日(金)元気に出発、8月7日(水)無事帰国しました。

◇「2019フィルモント」

7月15日(月・祝)「ウィルあいち」に日本連盟 国際委員長 嶋田寛様、副コミッショナー 氏家邦政様をはじめ、愛知連盟関係者、参加スカウト・ご家族を迎え結団式と壮行会を挙行了しました。



◇ 「フィルモント派遣」

日進第1団 ベンチャー隊
阪野真胤

「フィルモント派遣に行ってみないか」、そう言われたのは派遣の募集締め切りが間近に迫っているときでした。私はそのとき、派遣に最低限必要な技能章を一つも取得しておらず、自分では無理だと決めつけていました。それでも行こうと決めたのは、フィルモントへ行き感じたことを、を自分の隊で報告すれば、カブやボーイがベンチャーに興味を持ってくれるのではないかと思ったからです。面接をして、顔合わせをして、フィルモントでの役割やメディカルチェックなどの集会を開き、そして、二回の事前訓練を終えて、不安はどんどん高まっていくと同時に、好奇心でいっぱいになりました。

アメリカでは、全てが初めての体験で、言葉もあまり上手ではないため、戸惑いを隠せませんでした。体調管理が出来ていなかったために、初日に風邪をひいてしまいました。さらに、早くもみんなに迷惑をかけることになってしまい、早く風邪を治すためにみんなと少し別行動をしていたため、作業に慣れるのが遅くなってしまいました。それでもクルーのみんなで着実に歩き続け、トレック中のプログラムや富士山より高い山に登り、野生の動物を見ると、とても不思議な気持ちになりました。フィルモントでは、自分に足りない物が見つかる、そして、たくさんの思い出を作ることが出来ました。

私がこのフィルモントで学んだことは、仲間と助け合うときに遠慮は必要ないということと、自分は無意識に人任せにしているときがあるということです。私はチームワークが試されるプログラムで、仲間を支えなければいけないところで何もしてませんでした。一人でも出来るだろう、支えたら何か言われるかもしれない、そんなことを思っていた自分が、今ではとても馬鹿らしく思えます。フィルモントが修了し、今度はホームステイ先で観光をしました。ロサンゼルスでの食事はどれも新鮮で美味しかったです。観光した中で

一番印象に残っているのは、サンタモニカのビーチです、みんなでサッカーをしたり遊具で遊んだり、そして初めて海で泳いだことが一番楽しかったです。他にも天文台や宇宙博物館、野球なども見せてもらい、アメリカのボーイスカウトたちとたくさん交流が出来ました。

私たちは、このフィルモントでたくさんの方から支援をしてもらい、とても素晴らしい体験をさせて頂きました。この貴重な体験を無駄にしないためにも、自分に足りない物や自分の弱点と向き合っていきたいし、ここで感じたことをいろんな人に伝えていきたいと思いました。



◇ 「第24回世界スカウトジャンボリー」



7月19-21日、春日井少年自然の家にて出発前・事前訓練と結団式・壮行会を行い21日(日)、開催地アメリカに出発しました。結団式では派遣の証、日本連盟派遣隊チーフが隊長より伝達されると、本大会に向け意気高揚しました。

派遣隊は8月5日(月)無事帰国しました。

この度の海外派遣事業では地区内多くの皆様にご支援賜りました。感謝とお礼申し上げます。第25回世界スカウトジャンボリーは4年後2023年隣国・韓国(韓国南西部の全羅北道・セマングム)です。今から準備し多くのスカウトの参加を期待します。



◇ 「世界ジャンボリー」

イーブイ班
高野 伸一郎



この世界ジャンボリーでの僕の目標は「自分の趣味を通じて日本と海外それぞれの個性を見つけ世界より深く学ぶ」というものだったが、そもそも好きなものがゲームでその筐体がないためとてもコミュニケーションをするのが難しかった。

でもたとえばスウェーデンとの交流会ではだいぶまともに会話が成立したりなど、行く前に危惧していた「なんかたのしかった」とまではいかなかった。目標に対しての評価をつけるなら断じて上出来ではないが中の下くらいにはできたのではないかと思う。

イシツブテ班
青木 天道

私は24wsjに向けてメンタルの向上を掲げ、

班長として大会に参加しました。

しかし、班内での軋轢を緩和ないし止められなかったり、指示をうまく通せなかったりと、班長の仕事である「班の自治」をうまく果たせませんでした。そのことや、ミスを発する自分の不甲斐なさにかかなりストレスを貯め込んでしまいました。

そこから、私のメンタルが弱い理由は、ストレスを発散する方法を知らないからだに気付かされました。

今大会にメンタルが向上したかと言われると、微妙ではありますが改善すべき所を見つけることはできたので、これからはそれに向けて取り組んでいきたいと思います。



ノコッチ班
吉川 真由

今回のジャンボリーでの目標は、日本文化を伝えるということと、国際交流をして、仲を深めるということでした。

まず、日本文化を伝えるほうは、折り紙でつるを一緒に作ったり、習字で名前を書いてあげたり、それなりに伝えられたかなと思います。喜んでくれたのでよかったです。

次に国際交流です。たくさんの国のスカウトたちと話すのは楽しかったですが、なんといっても全く英語が話せなかったし、知らない言葉は曖昧に受け流してしまったのが悔しいです・・・。

なので、これからもっともっと英語を勉強して、たくさん話せるようになりたいです。でも、仲良くなった子とは、連絡が取れるようになっているので、これからも仲を深めていきたいです。



◇ 「世界ジャンボリーに参加して」

日進第1団 ボーイ隊
河合良太

僕はこの夏 24WSJ に参加した。正直最初は不安ばかりだった。なぜなら僕は外国へ行ったこともなければ、特別英語能力が高いわけでもなく、さらに僕の所属隊の中で最年少且つ中学二年生だったからである。だが実際参加してみるとそんな心配は一切必要なかった。ある意味外国を何も知らなかったからこそ感受性豊かになれたのかもしれない。そこでこの度は僕が外国人に感心したことを中心に書こうと思う。



まず外国人はみな基本的にポジティブだ。これは実際あったことだが、何時間も並んだプログラムが雷で中止になる。すると外国人が騒ぎ出す。どうやら雷の迫力にテンションマックスになったようだ。これは極端な例だ

が、そんなことが多々あった。また外国人たちには常にメリハリがある。僕たちより何時間も遅く起きてきて、僕たちより何時間も早くプログラムに出発する、これも日常茶飯事である。そして外国人はとにかくフレンドリーだ。それがあったからこそ僕のジャンボリー生活は楽しいものだったともいえる。そして僕たち侍（風刺的な言い方）はこの外国人の性格から様々なものを学ぶべきだ。次はぜひ IST として参加できたらうれしい。

◇ 「富士特別野営に参加して」

春日井第2団 ベンチャー隊
高井紗璃



私は八月十日から十六日まで、富士特別野営に参加しました。このキャンプに参加して得たもの、それは仲間と協力することの大切さです。班、隊の仲間が協力しなければ乗り越えられなかったと思います。そして、そんな仲間から沢山の刺激を受けました。私の知らないスカウト技能を知ったり、富士章を取得したいという思いが強くなりました。本当に辛いキャンプでしたが、その分成長することが出来ました。そして何より最高の仲間に出会うことが出来たので参加して良かったと心の底から思います。

富士特別野営は一生に一度しかない素晴らしい体験です。参加して後悔はしません。ぜひ富士特別野営 2021 年に参加してください。



◇ 「ドキドキなサイエンスワールド」

瀬戸第1団 ビーバー隊
すずき はるま



ぼくは、サイエンスワールドで葉っぱをこ
おらせてパキパキしたことがおもしろかった
です。

みんなでいろいろなものをさがしながらめ
いろを歩いてゴールできたことがうれし
かったです。

こんどは家ぞくでいきたいです。

◇ 「長期野営」

瀬戸第1団 ボーイスカウト隊
上級班長 伊藤翔太

私たちは日進2団と一緒に8月13日から
18日まで長期野営をしました。長期野営の中

で楽しかったプログラムは場外プログラムで
す。場外プログラムはボルタリングとトヨタ
博物館の見学と市民プールがあってその中
の市民プールに行きました。水泳には自信が
あるので後輩たちに泳ぎ方を教えるのが楽し
かったです。

あと貴重な体験もしました。キャンプ中に
台風が接近し野営が困難と判断されたため野
営地を移動し近くの避難小屋で一晩過ごし
ました。テントとは違ってみんなと一緒に雑
魚寝をしたので楽しい思い出になりました。



◇ 「北名古屋第2団は本年40周年を迎え ます 夏季各隊合同キャンプを開催」

北名古屋第2団
団委員長 植手厚

旧師勝第1団から発足した当団は、本年40
年目の節目を迎え、この夏、各隊合同キャン
プを長野県大桑村のぞきど森林高原で開催
しました。

二日目の8/11には、ビーバー隊まで各隊が
集い、流しそうめん、キャンプファイアを楽
しみました。ボーイ隊は、4泊5日のロングキ
ャンプを遂行し、天候にも恵まれ、思い出深
いキャンプとなりました。

小さな団ではありますが、この数年で、女
子スカウトの富士章2名、隼章1名を輩出
しております。

スカウトの質を、この40周年を機に、指導
者一同、益々充実させてまいります。



◇ 「キャンプ」

江南第3団 カブ隊
藤野 真士

ぼくは、8月10日から、8月12日まで、キャンプに行きました。とくに楽しかったことを3つしょうかいします。

1つ目は、川下りです。自分たちで作ったイカダを使って、やりました。イカダは、とてもゆれていて、バランスをとるのが大へんだったけど、楽しかったです。

2つ目は、スイカわりです。みんなが、たくさんわってくれたおかげで、スイカがやわらかくなり、ぼくも、すごい深くわれました。うれしかったです。



3つ目は、あまごつかみです。ぼくは、5ひきとれました。この5ひきは、すべて大きな

石の下に、かくれているものを、いたいと思いながら手をのばして、体をはってつかまえました。大へんだったけど、つかまえてからは、すごい達成感がありました。あまごを使った、あまごのしおやきも、おいしかったです。

とても楽しいキャンプでした。

◇ 「楽しかった夏季野営」

日進第1団 ボーイ隊
高橋 巧弥

ぼくは8月10日から3泊4日で、三重県の菰野町にて初めての夏季野営をしました。

今回の野営では、長久手第1団と尾張旭第1団と瀬戸第6団で集まって行う合同野営で、ちゃんとできるか心配だったけど、テントもうまく早く作れたのでよかったです。

合同野営でおどろいたことは、料理をするときに使う立ちかまどの作り方です。日進第1団では木で作っていますが、竹を使って作っている団もありました。

2日目には御在所に登りました。1回登ったことがあったので、他の団よりも早く頂上に着くことができました。うれしかったです。

3日目には水に関するプログラムをしました。自分で作った竹の水鉄ぼうを使って相手と飛びよりで勝負したり、い力で勝負したりしました。ぼくのはうまく作れなくてあまり飛ばなかったけど、自分のチームの人を応援して盛り上がったのでよかったです。

最後の夜には営火をしました。営火とはキャンプファイアの事です。営火では火をかこみながら、各班でゲームを考えて、それをみんなでしました。例えば、ぼく達の班では「私はだれでしょうゲーム」をしました。このゲームは一人がお題を考えて、それをみんなで質問し、それが何かを当てるゲームです。

今回の夏季野営最後の日には、それぞれの班で特によかったところを表しょうされました。ぼく達の班は営火賞でした。

ぼくはこの夏季野営で覚えたことや、言われたことを意識して、今後の野営に活かしていきたいです。

日進第1団 カブ隊
鎌苅 碧月



夏期舎営で一番大変だったのは、台風が近づいて雨がふっているときにやった ハイキングです。びしょびしょになったけれど、がんばったことが とても思い出に残っています。そして一番楽しかったのは、とても雨が強かったときに屋根の下でやった まが玉作りです。石を好きな形にけずって、まが玉をピカピカにすることが楽しかったです。台風が来て大変だった中でも、楽しめました。

◇ 「登山は楽しい！」

日進第1団 ボーイ隊
市川鈴二



◇ 「夏キャンプの思い出」

春日井第2団 カブ隊
加賀 友悠

8月10日から4日間、夏季野営がありました。今年は御在所へ行きました。夏季野営で楽しかったことがあります。それは登山です。なぜかという、景色がとてもよくて、色々な植物や生き物を見れたからです。実際に頂上から見た景色はインターネットで見た写真よりもずっと芸術的でした。

登山では大変なこともありました。急ながけや大きな岩が何か所もあって注意しながら登るのは大変でした。

また来年も登山をしてみたいです。

◇ 「大変だったけど楽しかった夏期舎営」

8月2日から岩村町にある「ブラウンスーパーパーク」で夏キャンプをしました。ぼくは、この夏キャンプで特に心に残った思い出を一つ紹介します。

それは、ツリークライミングです。落ちないとわかっていても、上の方まで来ると怖いという気持ちでいっぱいになりました。でも、最後の方にはもうその気持ちはほとんどなくなっていて、楽しいという気持ちに変わりました。そして、一番上まで登り切った時には、うれしいという気持ちになりました。

他にも、スタンプや、ハイキングも楽しかったけど、やっぱりツリークライミングが

一番心に残っています。



◇ 「夏キャンプ一番の思い出」

春日井第2団 カブ隊
馬淵 広誠



ぼくたちは恵那市岩村町の「ブラウンシー

パーク」というキャンプ場へ行きました。

今回のキャンプでは岩村町のハイキング、山登り、流しそうめんなど、楽しいことをいっぱいしましたが、その中で一番楽しかったのは「ツリークライミング」です。ぼくはがんばって一番上まで登ることが出来ました。そこからは深緑の山々が並んでいるのが見え、さわやかな風が吹いていました。宙に浮いているようで、下を見ると少しこわかったです。

景色も良かったし、隊のみんなでできたし、次にやる時はもっと高いところまで登れたらいいなあと思います。

◇ 「大変だった夏キャンプ」

春日井第2団 ボーイ隊
一宮 圭吾

ぼくは、7月30日から8月4日まで5泊6日の長期キャンプに行きました。最初に泊まるところに移動するとき、歩く距離がとても長く大変でした。このキャンプで一番大変だったのは、ハイキングです。最初、道を逆走して大変でした。そのあとに上った城跡は、一段のような道で登るのが大変でした。その次に上った水晶山を下りると急な下り坂と聞いていたところについたときには、かなり疲れていました。下り坂は考えていたよりもとても急で、しかも途中で雨が降ってきてぶじ下りれた時の達成感はとてもすごかったです。この夏キャンプで学んだことはたくさんありました。とても良い経験になりました。



◇ 「夏キャンプ」

春日井第2団 ボーイ隊

丸谷 涼寧

7月30日から8月4日まで、春2の夏期キャンプがありました。私は事情があって、2日からの参加でした。その中で一番の思い出は、ハイキングです。着いてすぐハイキングをしたので、つらさが一番ありました。ハイキングの中でも特に、水晶山という山を登っている時が一番記憶に残っています。まず、水晶山に行くまでのみちのりが長く、疲れがある中登り始めました。最初は、特に大きな登りが無い道で楽しかったのですが、途中から急になって、とても大変でした。その時班長だった私が一番体力なくすぐに疲れてしまいましたが、班員みんなで声を掛け合うことで山頂まで登りきることができました。やっぱり仲間ってすごいなと思いました。これが今年の私の夏キャンプです。



◇ 「夏キャンプ」

春日井第2団 ボーイ隊
青木 千音



私が夏キャプで心に残っているのは秘密基

地づくりです。丸太は重かったのでみんなで協力できたので良かったです。休憩時間のフルーツポンチはとてもおいしかったです。途中で帰ったから、完成を見ることが出来なかったのが残念でした。またいつか作ってみたいです

◇ 「キャンプの思い出」

春日井第2団 ボーイ隊
中村 優花

私は、キャンプで一番思い出に残ったのは、町探検です。町探検では、課題がけっこうむずかしく、探すのが大変でした。しかし、無事に見つけられたので、良かったです。探すうちゅうにあったおみやげ屋さんのおばあちゃんのところで、しそジュースを飲ませていただきました。こう見るとあの朝ドラのぶたいにもなった「ふくろう商店街」の人たちは暖かく、面白い人たちでいっぱいでした。朝ドラのぶたいでもあるあの町は、女城主のお城があるところでもあるのです。

また、キャンプ場では、晩ご飯やお昼ご飯等をつくったりするのも楽しかったです。ご飯も美味しく、メニューもとてもよかったです。包丁などで手などを切ることなく、安全に終わりました。しかし、町探検の前後の山登りでは、おなかが痛くなってしまい、途中で断念してしまいました。とてもそれが悔いではないです。



話によると「なかなかだった」と言ってました。帰りのバスでは、友達ととなりどおしですわり、仲良く会話をしながら帰りました。

とちゅうからの参加でしたが、最初から最後まで楽しく終われました。おみやげも良い物を変えました。楽しかったです。また、別のキャンプも行きたいです。

◇ 「夏キャンプの思い出」

春日井第2団 ボーイ隊
渡邊 僚哉

ぼくは夏キャンプで一番心に残ったことは、城下町を歩きながら課題をといていくハイキングでした。神社では石階段の長さを班で協力して計りました。ハイキングで1番思い出に残ったのは、城下町を見学しながら歩くことでした。ふつうの町とはちがって石や木造建築でした。だがしやさんはすごく昔っぽいなと思いました。歩いて足が痛くなってしまったけど最後に食べた五平もちはとてもおいしかったです。



◇ 「夏キャンプ」

春日井第2団 ボーイ隊
馬場翔英



ぼくは、7月30日から8月4日まで、5はく6日のキャンプを岩村でやりました。そこでは、やったことの無い体験をさせてもらいました。そのなかでとくに楽しかったことを書きます。それは、パイオニアです。木を運ぶのがたいへんでした。ぼくは、最初はこんな木で作れるのか心配でした。けど、うまくいってうれしかったです。班長が、ひもできを結んでいるところがすごかったです。本当に、良い思い出になりました。

◇ 「四季の森でバーベキュー」

春日井第5団ビーバー隊
山内 陽菜

8月最後の隊集会は、小牧四季の森でバーベキューをしました。たくさん食べて、たくさん遊びました。

そりすべりりが楽しかったので、絵をかきましたが、難しくてお姉ちゃんに手伝ってもらいました。



◇ 「カブスカウトのキャンプ」

春日井第5団カブ隊
石黒 真翔

ぼくがカブスカウトのキャンプで一番心に残ったことは、調理をしてみんなでごはんをたべたところです。

その中でも、とくに心にのこったことは、やさいをきったりお米をあらったことです。やさいをきるときにおかあさんが調理がじょうずなので、きるときに隊長にほめられてすごうれしかったです。さいしょに、たしかじゃがいもににんじんをきりました。にんじんはふつうにきったけど、じゃがいもはちがうき方をしました。それがすごくむづかしかったです。お米をたいてくれたのはシカさんたちでした。ぼくも少し手伝いました。

さいごにみんなでごはんをたべました。カレーをつくったのでおいしかったのでおかわりをしました。しるもつくったのでおかわりをしました。おいしかったです。

またキャンプに行って調理をしてみんなでごはんをたべたいです。



◇「キャンプの思い出」

春日井第5団カブ隊
すず木 そう太

ぼくのキャンプでの一番の思い出は、ごはん作りと工作です。

ポトフ作りで、にんじんとたまねぎ、ベーコンを切りました。にんじんを切るのはそこまでむづかしくなかったけれど、たまねぎは切り方はふつうにできるけど、なみだがでるので切るのに時間がかかりました。ベーコンはうすく切るのがむづかしくて、ばらばらになった物もありました。でもできてよかったです。

工作では、竹を切るのにとっても時間がかか

りました。竹ぼっくりを作って169歩くらい歩けました。次にはしを作りました。小刀で竹をけずりました。できてよかったです。



◇「キャンプの思い出」

春日井第5団カブ隊
波多野 様子

キャンプで一番楽しかったのは工作です。理由は2つあります。1つはお母さんにじまんでできるからです。2つ目は、帰ってからも洗ったらへやでもできるからです。

ほかにも、加賀さんがいっしょうけんめい作ってくれた竹馬も楽しかったです。みんなとハイキングも楽しかったです。ニセの鳥をうつやつがとてもむづかしかったです。でもコツをつかんでちょっとは当たったのでうれしかったです。またみんなでキャンプにいきたいです。



◇ 「キャンプ」

春日井第5団カブ隊
橋本 真奈

わたしはキャンプに行きました。さいしょは電車ののりかえだったのにつかれましたが、ついたら竹ではしをつくったり、たけぼつくりやいろいろ作ってたのしかったです。でもスタンプでパブリカのおどりをおどるときは、すこしきんちょうしました。またそのキャンプ場は1回しか行ったことがないので、電車ではあまりねれませんでした。五平もちはおしかったです。

帰る日は「いよいよ終わる」と思いましたが、いざ帰るとなると、長いのが短かったように感じました。また来るときは楽しくすごしたいです。



◇ 「岩村ブラウンシーパーク」

春日井第5団カブ隊
松尾 寿来

ぼくはボーイスカウトキャンプで岩村ブラウンシーパークへ行きました。さいしょに勝川駅に集合して電車にのりました。いろいろのりかえもして着きました。着いたらじゅんびをして活動を始めました。

その活動は夜ごはんのじゅんびです。かんせいしたごはんを食べるとすごくおいしかったです。そのごはんはピザやカレーです、ぼくは食べ物を切ったり火のぼんをしたりしま

した。ごはん作りでもっとも楽しかったのはピザ作りです。さいしょはかんたんそうに思っていたけれどむづかしかったです。具の量に気を付けて作って食べたらおいしかったです。友だちにもおいしいと言われとってもうれしかったです。

ねるまえに少し紙しばいを読みました。ぼくがよんだ紙しばいは、かくし絵やさかさ絵を使っていたので、読んでいるぼくもおもしろかったです。ねるときはあまり友だちとねたことがなかったのでドキドキしました。よなかにいろいろな子がトイレに行くのであまりねれませんでした。

岩村ブラウンシーパークを出発して親と会えた時は三日前にわかれたのになつかしく感じました。



◇ 「しきのもり」

春日井第5団ビーバー隊
すずき りょうと

ボーイスカウトで「しきのもり」にいきました。みんなでそりすべりをしました。みんなできょうそうしました。さいごに「いちい」になったのでうれしかったです。またやりたいです。



2020 年 8 月 東海 4 県連盟合同野営大会 ホームステイ受入家庭募集案内 行事国際委員会

2020 年 8 月 7 日(金)-12 日(水)岐阜県高山市日和田高原ロッジ・キャンプ場を会場に「第 3 回ボーイスカウト東海 4 県連盟合同野営大会(3 T C)」が開催されます。

この大会には韓国やアメリカ等の海外から約 100 名のスカウトが参加予定され、大会期間前の 8 月 5 日(水)～7 日(金)、県内各地区でのホームステイを行い、日本の家庭文化に触れた国際交流を図ります。

各地区で 6 ～ 10 名のスカウトを受入協力いただけますご家庭を募集いたします。

1 家庭 2 ～ 3 名を受入とし、尾張東地区として 3 ～ 5 つの受入家庭を募集いたします。

ご協力いただけますご家庭の方は、所属団の行事国際委員へ申しこみお願いします。

募集家庭数：3 ～ 5 家庭

募集〆切：12 月末

ご協力よろしくお願いします。

尾張東地区各団の体験・見学行事予定の案内

10/27 日進第1団 オープンスカウト・ウォークラリー 五色園

11/2-3 瀬戸第6団 水南公民館まつり参加
地域行事に貢献 鼓笛演奏 模擬店

11/3 春日井スカウト団主催のチビッコレンジャー大集合 春日井市落合公園

11/17 春日井第4団 BS キャンピングの実践
見学 上条町庄内川河川敷

11/17 春日井第5団 体験集会 忍者になっ
て修行しよう 二子山公園

11/23 北名古屋第1団 チャレンジ広場で
学ぼう 北名古屋市徳重 本郷林證寺

12/14 レディヤン祭 クラフト体験 レデ
ィヤン春日井

尾張東地区行事予定の案内

11/10 愛知連盟創立 70 周年記念ボーイスカウ
トの集い 場所 久屋大通公園

3/19～22 愛知連盟創立 70 周年記念ローバー
スカウト大会日和田高原

3/20～22 尾張東ベンチャー特別野営 場所
瀬戸市～春日井市～犬山市を予定

8/7～12 東海 4 県連盟合同野営大会
場所 日和田高原

《編集者より》

記事投稿ありがとうございました。

今回は2月末締め切りです。担当はCブロックで、江南第1団、北名古屋第1団、瀬戸第6団、長久手第1団 小牧第2団、春日井第4団、春日井第10団です。楽しい記事をお待ちしています。

今回も各団の体験・見学行事予定を掲載しました、今後も掲載しますので各団担当者様是非お知らせください。